

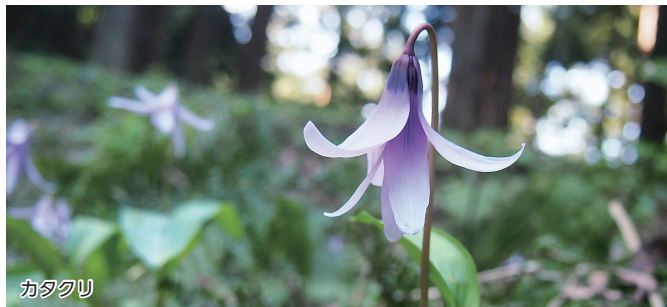


Monthly

さいがただより

National Hospital Organization Saigata Medical Center

2019年1月 Vol.22



カタクリ

発行：独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター 院長 下村 登規夫 <https://saigata.hosp.go.jp/>
〒949-3193 新潟県上越市大潟区犀潟 468-1 TEL:025-534-3131 FAX:025-534-4824

〈基本理念〉「良い医療を安全に、心をこめて」

新しい年が始まりました

さいがた医療センター 院長特任補佐 村上 優

明けましておめでとうございます。新しい年が始まりました。

昨年ほどはないという雪も、曇りや雨、強い北風、冬の雷などが新潟の風土を造っているのかもしれない。律儀で丁寧、耐え忍ぶ人柄がその現われに感じます。

2年越しに精神保健福祉法の改正が流れて、国会で議論されることすら無くなりました。その眼目は措置入院の改正でした。発端は相模原で起きた津久井やまゆり園での事件でした。精神医療が変化する契機に不幸な事件がありますが、それは我が国に限ったことではありません。1860年代の英国でマクノートン・ルール（心神喪失）という概念が出来ました。わが国でみれば古くはライシャワー大使の事件をきっかけに通院公費負担制度、新しくは池田小学校事件の医療観察法制定です。

措置入院は「精神障害のために自傷他害の恐れがある」という要件で治療を開始する制度です。当事者の意思にかかわらず治療が開始されるために、人権上の配慮を丁寧に行うことを特に求めています。一方で精神科救急医療の目的で使用されるために、迅速に医療につなげることも求められています。道路で倒れて意識がなければ誰しも救急車をよび治療が直ちに開始されることに異論を唱える人はいないでしょう。救急医療を適正に動かすにはそれを支えるシステム、すなわち医療機関と医療者、特に医師（精神科では資格を持った精神保健指定医）が必要です。

未治療の方が幻聴に支配され、自殺目的で包丁を手にして暴れているということで警察が呼ばれました。土曜日の夕方という時間です。結局は本人が診療を拒否しているので様子を見るということで収まったようです。医師が多く救急システムが整っている東京ですと緊急措置入院制度を活用し一人の精神保健指定医で判断して医療が開始され、72時間以内に二人の精神保健指定医の診察で本格的な措置入院に移行します。これに関わる医師は入院施設以外の医師で行うために、常に診察できる精神保健指定医が4名以上必要になります。上越地域でも通常時間帯であれば可能ですが、土曜日夕方などは医師の確保が困難と推測されます。私がこれまで勤務してきた沖縄や三重でも同様な困難がありましたが、それなりに制度内での解釈や工夫をして対応していました。一医師には制度を変える力はありませんが、医師が増えるまで耐え忍ぶだけでなく制度運用の工夫を地域の皆さんと共に考えることができると年頭に思いました。

Content

1 P…○新しい年が始まりました

2 P…○アクション（依存症）診療部門

○クロザピンの治療状況

○神経難病医療

○放射線画像診断の受入（共同利用）

○認知症医療

○デイケア

○訪問看護

○重症心身障がい医療（ショートステイ）

「独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター」

アディクション (依存症) 診療部門

精神科診療部長 佐久間 寛之

当院では平成30年9月より依存症治療プログラムを開始しました。お酒の問題だけでなく、違法薬物や処方薬依存、ギャンブル依存など、依存症全般を対象に診療を行っています。ご本人、ご家族からのご相談はもとより、行政機関からのケース相談にも対応しております。

また発達障害・高次機能障害の診療も行っております。当院では精神科医・臨床心理士による検査とアセスメント、多職種チームによる介入を行っています。また高次機能障害については、脳神経内科と精神科が連携体制を取っています。お困りの方、どうぞお気軽に受診相談のお電話をください。

クロザピンの治療状況

薬剤科

平成30年8月から治療抵抗性統合失調症の患者さんに対してクロザピン治療を開始しました。クロザピン治療前は抗精神病薬を複数服用していた患者さんもクロザピンのみの単剤となり、服用する際の負担が少なくなりました。また治療経過も良好です。

平成30年12月新規の症例は0例、累計14例です。(12月31日現在)

神経難病医療

脳神経内科

当院の脳神経内科は80床あり、主にパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多系統委縮症・筋萎縮性側索硬化症の薬物調整・リハビリテーション目的の入院を受け入れています。

また、地域包括ケアシステムの実現に向けて退院支援に力を入れており、多職種間で協働するためにカンファレンスの充実を図り、患者さんにより良い援助・支援の提供を心がけています。地域における神経難病中核病院としての機能充実に努めています。

放射線画像診断の受入 (共同利用)

診療放射線科

当院は、CT(80列)、MRI(1.5T)、そして上越地域では数が少ないSPECT装置を有しております。また、放射線画像診断医が常勤でおりますので、検査結果がすぐにわかります。

この画像診断体制で、国立病院機構の役割の1つ“地域での医療の提供”の一環として、地域の医療施設からの検査依頼もお受けしています。お急ぎの場合には当日検査にも対応しています。ぜひご利用ください。

平成30年12月実績：MRI-9件、CT-3件、SPECT-0件

認知症医療

心理療法室

精神科と脳神経内科及び内科の各担当医師が連携して、幅広い視点から原因となる病気の特定に努めております。

また、当院にはCTスキャン、MRIが設置されており、診療放射線技師や読影をする放射線画像診断医が常駐しておりますし、脳波計を用いたより精密な検査や臨床心理士による神経心理学検査も実施可能です。お気軽にご相談ください。

デイケア

リハビリテーション科

当院では、社会生活機能の回復を目的として難病や精神障がいを持つ人のデイケアを実施しています。

難病デイケアは、毎週月・水・木に実施しており、身体機能の維持・向上だけでなく、仲間づくりも支援しています。

精神デイケアは、毎週月曜日から金曜日まで、精神障がいの回復途上にある人が社会の中で自立した生活ができることを目指して実施しています。見学や相談、参加希望の方はお気軽にご相談ください。

訪問看護

看護部

地域で安心して生活していただくために入院時から関わらせていただき、医師、ケースワーカー、作業療法士と連携しながら、病状や服薬に関する支援、家族への支援など、利用者の方に必要な支援を行っています。訪問は看護師の他、必要に応じてケースワーカーも同行し、書類作成や社会資源の利用などのご相談についても支援させていただきます。

重症心身障がい医療 (ショートステイ)

療育指導室

当院の重症心身障がい病棟では、「医療型短期入所」(通称：ショートステイ)の受け入れを行っています。

当院のショートステイは、在宅で生活されている重症心身障がい児者を対象に、申込み頂いた一定期間を病棟でお過ごし頂き、食事の他、ご利用の曜日等によっては入浴や日中活動も提供しています。また、日帰り利用や他の通所事業所の利用後に宿泊を伴う利用等も可能となっています。

利用される方や地域のニーズ等も取り入れ、利用しやすいサービスが提供できるよう取り組んでまいりますので、お気軽にお問い合わせください。

ショートステイ：12月の延べ利用日数 29日

空床情報(長期利用)：1月1日現在 4床



外来担当医表

←こちらのQRコードより
ご覧いただけます